

1. 背景と目的

中国において、家事・育児役割の主な担い手が女性であることは変わりがないが、中国の男性は日本や韓国より家事参加に積極的（白水 2006）であると指摘されている。第三期中国婦女社会地位調査課題組（2011）によると、都市部の男性における一日の家事時間は43分であり、女性の場合の102分よりは少ないが、家事・育児にかかわっていることが明らかである。その一方で、Zhang(2007)の研究では、改革開放以前の世代の男性が開放以降の男性より家事に使う時間が長かったことが明らかにされた。中国は、計画経済から市場経済の導入へという大きな社会構造の変革を行った歴史があるため、男性の家事・育児参加及びジェンダー規範を議論する際には、社会構造の変化を取り込む必要があると考えられる。また、中国は1978年ごろから一人っ子政策を実施しており、一人っ子という属性が男性のジェンダー意識に影響をもたらす可能性も十分考えられる。

そこで、本研究は改革開放及び一人っ子政策の背景で生まれた、1978年から1989年まで生れた通称80後の男性に注目し、比較対象として、育児期において計画経済期の政策を利用できた1968年から1977年まで生れた70後の男性も分析に取り込む。さらに、80後男性の配偶者である80後女性のインタビューデータを分析し、男性の役割遂行における配偶者からの評価及び影響を確認する。80後男性の仕事と家事・育児の調整プロセスを明らかにすることによって、かれらのライフスタイルの選択の過程及び特徴を提示し、社会主義近代化におけるジェンダー規範の再構築を考察することが本研究の目的である。

2. 対象と方法

本調査は、2015年、2016年、2018年に中国の山東省の都市部で行ったヒアリング調査データを分析する。サンプリングは、知人に最初の対象者を紹介してもらい、その後、スノーボールサンプリングを行い、最終的に80後18名（夫婦別席のペアデータ）、比較対象である70後10名（夫婦別席のペアデータ）から協力を得た。

インタビューの所要時間は一人当たり1時間前後であり、調査対象者の許可を得て、会話内容をテープレコーダーに録音した。また分析にはテキスト化したデータを使用した。

3. 結果

80後男性は70後男性と比べ、あまり育児していないことが語りの分析から明らかになった。職場において育児支援とワークライフバランスに配慮する柔軟性が低く、80後男性の育児参加や、夫婦間の育児協力、コミュニケーションに支障をもたらしている。70後の育児期には、職場の柔軟性が高く、福利厚生が充実していたことが、80後男性よりも育児をできた理由である。

また、80後男性は仕事と家事・育児の調整において葛藤を持っていることから、かれらは育児へもっと参加したがることもいえる。その一方で、80後男性は稼得役割の遂行を絶対視し、それを男性のプライベートと自己実現にかかわるものと意味づけしている。80後の男性は稼得役割に力を注いでいるが、配偶者は必ずしも男性の稼得の遂行が十分であると評価しているわけではなく、男性の家事・育児参加を期待していることも明らかにされた。本報告では、80後男性のライフスタイルの特徴及び考察について詳述する。

※本研究で使用するデータの一部はお茶の水女子大学文部科学省特別経費「グローバル女性リーダー育成カリキュラムに基づく教育実践と新たな女性リーダーシップ論の発信」プロジェクト「学生海外派遣」プログラム平成26年度、平成27年度「学生海外調査研究」の助成金を受け収集した。

キーワード：ジェンダー意識、仕事と家事・育児、80後男性